

【農業簿記1級管理会計編問題集解答用紙】

問題 1-1 固変分解①

変動費率

円/10a

固定費額

円

問題 1-2 固変分解②

最小自乗法

変動費率

円/10a

固定費額

円

高低点法

変動費率

円/10a

固定費額

円

問題 1-3 CVP分析 (1) 損益分岐点などの算定

問1

限界利益率

%

問2

限界利益

円

営業利益

円

問3

損益分岐点変動益

円

損益分岐点販売量

Kg

問題 1-4 CVP分析 (2) 利益構造の分析

問1	損益分岐点変動益	万円		
問2	① 営業利益	万円	損益分岐点変動益	万円
	② 営業利益	万円	損益分岐点変動益	万円
	③ 営業利益	万円	損益分岐点変動益	万円
	④ 営業利益	万円	損益分岐点変動益	万円

問題 1-5 CVP分析 (3) 各種指標の算定

問1	安全余裕額	円		
	安全余裕率	%	損益分岐点比率	%
問2	安全余裕率	%		
問3	目標営業利益 達成変動益	円	目標営業利益 達成耕地面積	m ²
	経営レバレッジ係数		安全余裕率	%

問題 1-6 CVP分析 (4) 限界利益図表の作成① (製品が1種類の場合)

問1

損益分岐点変動益

 円

損益分岐点耕地面積

 m²

問題 1-7 CVP分析 (5) 限界利益図表の作成② (製品が2種類以上の場合)

問1

 円

問3

A作物

 円

B作物

 円

C作物

 円

問4

 円

問題 1-8 CVP分析 (6) 損益分岐点の算定 (製品が2種類以上の場合)

問1

 円

A作物

 m²

B作物

 m²

問2

 円

A作物

 m²

B作物

 m²

問題 1-9 CVP分析 (7) 利益計画図表の作成

問1 目標営業利益率 達成変動益 円 目標営業利益率 達成耕地面積 m²

問3 目標営業利益額 達成変動益 円 目標営業利益額 達成耕地面積 m²

問題 1-10 CVPC分析

問1 資本回収点変動益 円

問2 目標資本利益率 達成変動益 円

資本回転率 回転

変動益利益率 %

問題 2-1

 損益計算書の作成損益計算書

I	変動益		
II	変動売上原価		
1	期首製品棚卸高		
2	当期製品製造原価	_____	
	計		
3	期末製品棚卸高	_____	_____
	製造マージン		
III	変動販売費		_____
	限界利益		
IV	固定費		
1	製造原価		
2	販管費	_____	_____
	営業利益		=====

問題 2-2

 固定費調整（実際全部原価計算と実際直接原価計算）

問 1

損益計算書

I	変動益		()
II	売上原価		
	1. 期首製品製造原価	()	
	2. 当期製品製造原価	()	
	3. 期末製品製造原価	()	()
	売上総利益		()
III	販売費及び一般管理費		()
	営業利益		()

問 2

損益計算書

I	変動益		()
II	変動売上原価		
	1. 期首製品製造原価	()	
	2. 当期製品製造原価	()	
	3. 期末製品製造原価	()	()
	製造マージン		()
III	変動販売費		()
	限界利益		()
IV	固定費		
	1. 製造原価	()	
	2. 販売費及び一般管理費	()	()

問3

損益計算書

営業利益（直接原価計算）	（	）
V. 固定費調整		
期末棚卸資産固定加工費	（	）
期首棚卸資産固定加工費	（	）
営業利益（全部原価計算）	（	）

問4

損益計算書

営業利益（直接原価計算）	（	）
V. 固定費調整		
期末棚卸資産固定加工費	（	）
期首棚卸資産固定加工費	（	）
営業利益（全部原価計算）	（	）

問題 2-3 セグメント別損益計算書の作成

損益計算書

	X作目	Y作目	合計
I 変動益	-----	-----	-----
II 変動売上原価	-----	-----	-----
製造マージン	-----	-----	-----
III 変動販売費	-----	-----	-----
限界利益	-----	-----	-----
IV 個別固定費	-----	-----	-----
作目別利益 (セグメント・マージン)	-----	-----	-----
V 共通固定費			
1. 製造費			-----
2. 販売費			-----
3. 一般管理費			-----
営業利益			=====

問題 3-1 機会原価

A案の機会原価 () 万円

B案の機会原価 () 万円

C案の機会原価 () 万円

したがって、() 案が最も有利である。

問題 3-2 プロダクト・ミックス

作物A	a	作物B	a	貢献利益	千円
-----	---	-----	---	------	----

目的関数	
制約条件	
非負条件	

問題 3-3 セグメントの継続か廃止かの意思決定

{
継続
廃止
 する方が () 円有利なので

{
継続
廃止
 すべきである。

問題 3-4 受注可否の意思決定

() 円有利なため、新規注文を受ける (べきである・べきではない)。

問題 3-5 追加加工の可否の意思決定 (1)

農産物 () は追加加工を行うべきである。

問題 3-6 追加加工の可否の意思決定 (2)**問 1** 畜産物損益計算書

	畜産物 A	畜産物 B
変 動 益		
売上原価	_____	_____
利 益	=====	=====

問 2 畜産物損益計算書

	畜産物 A	畜産物 B
変 動 益		
売上原価	_____	_____
利 益	=====	=====

問 3 畜産物 A は、(追加加工の上・追加加工せず) 販売し、
畜産物 B は、(追加加工の上・追加加工せず) 販売するべきである。
このときの利益は _____ 円となる。

問題 3-7 内製か購入かの意思決定

飼料を自製する方が () 円 (有利・不利) である。

問題 3-8 価格決定

問1 円

問2 %

問3 円

問4 %

問題 3-9 資本コスト

() %

問題 3-10 正味現在価値法と現在価値指数法（収益性指数法）

問1 A案の正味現在価値：() 千円
 B案の正味現在価値：() 千円
 したがって、() 案の方が () 千円有利である。

問2 A案の正味現在価値指数：() %
 B案の正味現在価値指数：() %
 したがって、() 案の方が () %有利である。

問題 3-11 内部利益率法

A案の内部利益率：() %
 B案の内部利益率：() %
 したがって、() 案の方が () %有利である。

問題 3-12 回収期間法

A案の回収期間：() 年
 B案の回収期間：() 年
 したがって、() 案の方が () 年有利である。

問題 3-13 投資利益率法（会計的利益率法）

問 1 A案の投資利益率：() %
 B案の投資利益率：() %
 したがって、() 案の方が () %有利である。

問 2 A案の投資利益率：() %
 B案の投資利益率：() %
 したがって、() 案の方が () %有利である。

問題 3-14 キャッシュ・フローの把握（1）

問 1	現 在	1年後（第1期末）	2年後（第2期末）
A機械案	千円	千円	千円
B機械案	千円	千円	千円

問 2	現 在	1年後（第1期末）	2年後（第2期末）
A機械案	千円	千円	千円
B機械案	千円	千円	千円

問3

A機械案

 千円

B機械案

 千円

したがって、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{A機械案} \\ \text{B機械案} \end{array} \right\}$ を採用すべきである。(不要な語句を二重線で消去しなさい)

問4

A機械案

 %

B機械案

 %

したがって、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{A機械案} \\ \text{B機械案} \end{array} \right\}$ を採用すべきである。(不要な語句を二重線で消去しなさい)

問5

A機械案

 %

B機械案

 %

したがって、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{A機械案} \\ \text{B機械案} \end{array} \right\}$ を採用すべきである。(不要な語句を二重線で消去しなさい)

問6

A機械案

 年

B機械案

 年

したがって、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{A機械案} \\ \text{B機械案} \end{array} \right\}$ を採用すべきである。(不要な語句を二重線で消去しなさい)

問題 3-15 キャッシュ・フローの把握 (2)

問 1

(A案)	現時点	1年後	2年後	3年後
年次現金流出入額	百万円	百万円	百万円	百万円

(B案)	現時点	1年後	2年後	3年後
年次現金流出入額	百万円	百万円	百万円	百万円

(注) 年次現金流出額については、マイナスを附すこと。

問 2 () %

	A案	B案
正味現在価値	百万円	百万円
内部利益率	%	%

問題 3-16 キャッシュ・フローの把握 (3)

問 1	現在 (第 0 期末)	1 年後 (第 1 期末)	2 年後 (第 2 期末)
購入案	千円	千円	千円
賃借案	千円	千円	千円

問 2	現在 (第 0 期末)	1 年後 (第 1 期末)	2 年後 (第 2 期末)
購入案	千円	千円	千円
賃借案	千円	千円	千円

問 3

{

 購入案
 賃借案

 の方が (千円) 有利なので、
 {

 購入案
 賃借案

 を採用すべきである

(不要な語句を二重線で消去しなさい)

問 4	現在 (第 1 期首)	1 年後 (第 1 期末)	2 年後 (第 2 期末)
購入案	千円	千円	千円
賃借案	千円	千円	千円

問題 3-17 キャッシュ・フローの把握 (4)

問 1	1 年度	2 年度	3 年度
A 社設備			
B 社設備			

問 2	現在	1 年度	2 年度	3 年度
A 社設備				
B 社設備				

問題 3-18 キャッシュ・フローの把握 (5)

問 1 代替案ごとに求める場合

	現在 (第 0 期末)	1 年後 (第 1 期末)	2 年後 (第 2 期末)
現在設備案	千円	千円	千円
新設備案	千円	千円	千円
現有設備案を新設備案に含める場合	千円	千円	千円

問2 代替案ごとに求める場合

	現在（第0期末）	1年後（第1期末）	2年後（第2期末）
現在設備案	千円	千円	千円
新設備案	千円	千円	千円
現有設備案を新設備案に含める場合	千円	千円	千円

問3

}

 現有設備案
 新設備案

 の方が
 千円 有利なので、
}

 現有設備案
 新設備案

 採用すべき

である。（不要な語句を二重線で消去しなさい）

問4

現在（第1期首）	1年後（第1期末）	2年後（第2期末）
千円	千円	千円

問題 3-19 キャッシュ・フローの把握（6）

A案の正味現在価値		B案の正味現在価値		正味現在価値の差額
千円	－	千円	＝	千円

したがって、現有設備を新設備に取り替えるべきで（ ある ・ ない ）。

問題 3-20 キャッシュ・フローの把握 (7)

現時点	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目

問題 3-21 不確実性下の意思決定

問1	1年目	2年目	3年目
	万円	万円	万円

問2	万円
----	----

問題 4-1 仕掛品勘定の記帳と原価差異分析

問 1

仕 掛 品

前 期 繰 越	製 品
素 畜 費	原 価 差 異
賃 金	次 期 繰 越
製 造 間 接 費	

仕掛品勘定で把握される原価差異

価格差異	数量差異
円	円

賃率差異	作業時間差異
円	円

予算差異	操業度差異	能率差異
円	円	円

問2

仕 掛 品

前 期 繰 越	製 品
素 畜 費	原 価 差 異
賃 金	次 期 繰 越
製 造 間 接 費	
_____	_____
_____	_____

仕掛品勘定で把握される原価差異

価格差異	数量差異
円	円

賃率差異	作業時間差異
円	円

予算差異	操業度差異	能率差異
円	円	円

問3

仕 掛 品

前 期 繰 越	製 品
素 畜 費	原 価 差 異
賃 金	次 期 繰 越
製 造 間 接 費	

仕掛品勘定で把握される原価差異

価格差異	数量差異
円	円

賃率差異	作業時間差異
円	円

予算差異	操業度差異	能率差異
円	円	円

問題 4-2 製造間接費差異分析（各種予算の比較）

問 1	管理可能差異	管理不能差異
	円	円

問 2	予算差異	変動費能率差異	固定費能率差異	操業度差異
	円	円	円	円

問 3	予算差異	能率差異	操業度差異
	円	円	円

問 4	予算差異	能率差異	操業度差異
	円	円	円

問題 5-1 活動基準原価計算（ABC）①（製造業におけるABC）

問 1	製品 P	製品 P
	円/個	円/個

問 2	製品 P	製品 P
	円/個	円/個

問題 5-2 活動基準原価計算（ABC）②（農企業におけるABC）

ジャガイモ	円
タマネギ	円
ニンジン	円